

令和3年度 学校関係者評価報告書

学校法人タイケン学園 日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 関係者評価委員会は「令和3年度自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1	開催日時	令和3年5月11日火曜日	18：30～19：30
2	学校関係評価委員 (五十音順)	池崎 雄太郎	平成31年卒業生
		内山 洋二郎	内山電気管理事務所 代表
		籠原 裕明	福岡県立小倉工業高校同窓会長
3	事務局内部委員	本田 和人	日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 校長
		岡本 京子	日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 事務長
		長藪 明子	日本ウェルネススポーツ専門学校北九州校 教務
4	学校関係者評価委員会議事の概要	事務局より配付済み資料「自己評価報告書」をもとに、出席委員に説明した。 その他配布資料・・・「学則」「令和3年度学生募集要項」「学校案内2022」	

評価項目	評価・意見	今後の改善方法
1. 教育理念・目標	教育理念は変わらないが、時代の急激な変化やコロナなど予想しなかった状況に目標がずれてきた	今後の方向性を早期に決めること
2. 学校運営	学園の事業計画に基づき適切に学校運営されているので問題はない。	固定観念や旧来の慣習にとらわれない学校運営をやっていく、
3. 教育活動	コロナ禍において、いままでとは違った視点で教育を行っていかなくてはならなくなった。 生活スタイルもかわってきたため、その中で何が必要とされているのかを見極める必要がある。	固定概念にとらわれすぎず、新しいアイデアをどんどん試していかなくてはいけない。
4. 学修成果	退学率低減のためのカウンセリング強化や就職支援などやや改善が必要に思われる。 オンライン授業の増加で直接会う機会も減ってきた。	対面でのコミュニケーションが減ってきたため、どうすれば密に状況を把握できるのか考え、対応していく必要がある。
5. 学生支援	スポーツを学習するだけでなく、競技として実践できる貴重な学校である。他校にはない本校の特待制度は、進学に支障のある学生にとって入学を決める大きな要因となっている。	職業に直結した教育成果をさらに高めていく必要がある
6. 教育環境	校舎の老朽化などが目立ち、今後、手を加えていかなくてはならない部分は多いように見える。しかし校舎が広いので密にならずに授業ができています。	施設整備の徹底。 引き続き環境改善の必要はある。

7. 学生の受け入れ募集	募集活動の成果はむなしくもなかった。 在校生の進級のみ。	法人本部からの今後の経営方針の決定待ちである
8. 財務	運営に問題ない	問題なし
9. 法令等の遵守	個人情報の保護に関する規定を整備したり、教職員の啓発のための研修も計画的に実施している。	問題なし
10. 社会貢献・地域貢献	地域の施設訪問やイベント参加など積極的に行っている。	今後は参加するだけでなく地域の要望などを取り入れて交流する機会を増やしていきたい。
11. 国際交流	コロナ禍で留学生も苦境に立たされている。 国際交流はできていないが、在校生や卒業生との交流をいまは大事にしていきたい。	